

2025 年度 第 1 回福祉分野教育課程編成委員会 議事録

1. 日時

2025 年 8 月 8 日（金） 14:30～16:30

2. 場所

早稲田速記医療福祉専門学校 本校 1 階会議室

3. 出席者（順不同・敬称略）

企業等委員：丸山泰一（社会福祉法人池上長寿園 統括事業所長）、戸嶋哉寿男（杉並定期巡回連絡会代表）

本校委員：川口拓也（校長）、松田朗（介護福祉科学科長）、中嶋純也（介護福祉科教員）、渡辺愛子（介護福祉科教員）、濱野厚子（介護福祉科教員）、榊原幸之（事務局長）

オブザーバー：前田律子（副校長）

委員会事務局：土方雄太

4. 欠席者

飯塚文雄（委員会事務局）

5. 議長

松田朗

議題等

1. 今年度委員の確認

事務局より今年度の委員構成が確認され、新任委員が紹介された。

2. 校長挨拶

昨今の学生募集における厳しい状況、特に留学生の増加という大きな変化に触れ、現場のニーズに応えられる実践的な人材育成の重要性を強調した。

3. 前回委員会議事録の確認

事務局より前回（2025 年 2 月 28 日開催）の議事録案が提示され、内容に異議なく承認された。

4. 2024 年度第 2 回委員会以降の主な経過について

事務局長より、学生の退学状況、就職状況、オープンキャンパスの参加状況等について報告が行われ、了承された。特にオープンキャンパス参加者数が留学生を中心に大幅に増加した点が共有された。

5. 2024 年度就職状況報告について

学科長より、2025 年 3 月卒業生の最終的な就職状況が報告された。

6. 2025 年度学科教育と学科運営、教員研修、2026 年度カリキュラムマップ案について

学科長より、今年度の運営計画、実習計画、教員研修、および来年度以降のカリキュラム編成について報告があり、意見交換が行われた。

【委員からの意見・討議】

■業界のニーズと人材育成について

- ・現場で最も重要視されるのは、チームワークとコミュニケーション能力である。技術的スキルは後からでも習得できるが、協調性や他者と円滑に関わる力は基礎として不可欠。そうした人材が来てくれると、職場全体が活性化する。
- ・精神的な強さ、打たれ強さも必要。教育の段階で、ある程度の厳しさをもって接し、社会の厳しさに対応できる精神的な強さ（レジリエンス）を育むことも重要ではないか。

■介護の魅力発信と学生募集について

- ・留学生は口コミで来校することが多いとのことだが、一般の日本人に向けて介護の仕事の魅力を伝える際に、どのようなメッセージが響くか苦慮している。ポジティブな関心を引くための効果的なセールストークやキャッチフレーズは何か。
- ・オープンキャンパスでは、介護を単に「大変な仕事」としてではなく、「誰かのためだけでなく、自分自身の人生を豊かにする幸せな仕事」であり、社会全体にとって「消費」ではなく「未来への投資」であるという視点を伝えるよう心掛けている。
- ・学科長が提唱された「ハッピーのプロになる」という言葉は、学生にとって非常に新鮮でポジティブに響いているのではないか。「介護」＝「ハッピー」というイメージは、教員自身のモチベーションにも繋がっている。
- ・本校では「ハッピー」というキーワードを大切にしている。これは、誰かを幸せにすることで自分も幸せになるという介護の本質を表しており、学生募集や教育の質を高める上で中心的な考え方となっている。

■実習における課題と対応について

- ・実習先を選ぶ際、学生は指導者の丁寧さや職員間の雰囲気重視する傾向がある。特に「放置されている」と感じさせない、常に気にかけてもらえる環境が高く評価される。

■留学生の国家試験猶予措置について

- ・留学生の国家試験合格に関する 5 年間の在留猶予措置の今後の動向について、何か情報があればお伺いしたい。この措置の有無は、今後の留学生募集に極めて大きな影響を及ぼすものである。

- ・現時点で明確な情報は入っていない。先行きは不透明な状況である。

【まとめ】

討議の結果、以下の点が今後の重要な検討課題として再確認された。

●学生の社会人基礎力の育成

現場のニーズとして、技術以前に「チームワーク」「コミュニケーション能力」「精神的な強さ（レジリエンス）」が強く求められていることが共有された。特に現代の学生の特性を踏まえ、単に知識・技術を教えるだけでなく、他者と協働する力や困難に立ち向かう精神力をいかに育むかが喫緊の課題とされた。

●介護の魅力発信の継続と深化

介護職の魅力を伝える上で、「ハッピーのプロになる」「介護は消費ではなく未来への投資」といったポジティブなメッセージングが有効であることが確認された。この方針を継続し、学生募集だけでなく、一般社会へのイメージ向上にも繋げていくことが重要とされた。

●カリキュラムの柔軟な見直し

カリキュラムの柔軟な見直しを進める方針が支持された。また、金融リテラシーのような社会で生きる上で必要な知識を特別講座として提供する試みも評価された。

●留学生支援制度の動向注視

留学生の国家試験合格後の在留猶予措置の行方が、今後の学生募集に直結する重大な関心事であることが改めて認識された。引き続き、国の動向を注視していく必要がある。

以上の課題に対し、学校と現場が連携を密にしながら、より実践的で魅力ある教育を提供していくことで一致した。

7. 次回日程、その他

事務局より、次回委員会の日程について案内があった。

開催時期：2026 年 2 月 13 日（金）14:30～16:30 で調整

8. 閉会

議長より閉会の挨拶があり、各委員への謝辞が述べられた。